

IDEC株式会社 2027年3月期 上期決算説明会を始めさせていただきます。
私は、本日司会を務めさせていただきます、コーポレートコミュニケーション室の元山理映子と申します。

本日の出席者をご紹介させていただきます。
代表取締役　専務執行役員　舩木崇雄です。
グローバルファイナンス本部　本部長　小川泰幸です。
宜しくお願いいたします。

本日は上期の決算概要についてご説明させていただいた後、中期経営計画の進捗について専務の舩木よりご説明いたします。
その後質疑応答を行わせていただきますので、よろしくお願いいたします。

01 — 2027年3月期　上期の業績

それでは、上期の決算のポイントについて、ご説明させていただきます。

上期連結決算のポイント

IDEC

売上

売上高 **432**億円（前年同期比 +26.8%）

- AIやデジタル関連分野の設備投資の拡大に伴い、引き続きグローバルで半導体装置やロボット、工作機械などの業界向けを中心に受注が拡大し、各地域、主要な製品群で売上高が増加

利益

営業利益 **62**億円（前年同期比 +137.4%）　営業利益率 **14.3**%

- 増収の影響により、利益も大幅に改善

配当

中間配当 **65**円（前年同期 65円）

Copyright IDEC Corporation. All rights reserved.

上期における世界経済は、中東情勢の緊迫化に伴うエネルギー価格の上昇や、サプライチェーンへの影響懸念などを背景に、先行き不透明な状況が続いたものの、AIやデジタル関連分野を中心とした設備投資の拡大により、引き続きグローバルで半導体装置やロボット、工作機械などの業界向けを中心に、制御機器需要が堅調に推移し、受注が拡大いたしました。
その結果、各地域、主要な製品群で売上高が増加し、前年同期比26.8%増の、432億円となりました。

営業利益は、増収の影響により大幅に改善し、前年同期比137.4%増の62億円、営業利益率14.3%となりました。
中間配当は、計画通り65円とさせていただいております。

連結業績

IDEC

単位：百万円 ※百万円未満切り捨て	2026年3月期 上期		2027年3月期 上期		
	実績	売上比	実績	売上比	前年同期比
売上高	34,111	100.0%	**43,269**	100.0%	+26.8%
売上総利益	15,228	44.6%	**20,551**	47.5%	+35.0%
販売費及び一般管理費	12,617	37.0%	**14,351**	33.2%	+13.7%
営業利益	2,611	7.7%	**6,200**	14.3%	+137.4%
経常利益	2,909	8.5%	**6,177**	14.3%	+112.3%
親会社株主に帰属する中間純利益	1,755	5.1%	**7,251**	16.8%	+313.1%
1株当たり中間純利益 （潜在株式調整前）	59.48円	－	**244.84円**	－	+185.36円
米ドル平均レート（円）	146.03円		**159.49円**		+13.46円
ユーロ平均レート（円）	168.05円		**184.42円**		+16.37円
人民元平均レート（円）	20.29円		**23.54円**		+3.25円

Copyright IDEC Corporation. All rights reserved.

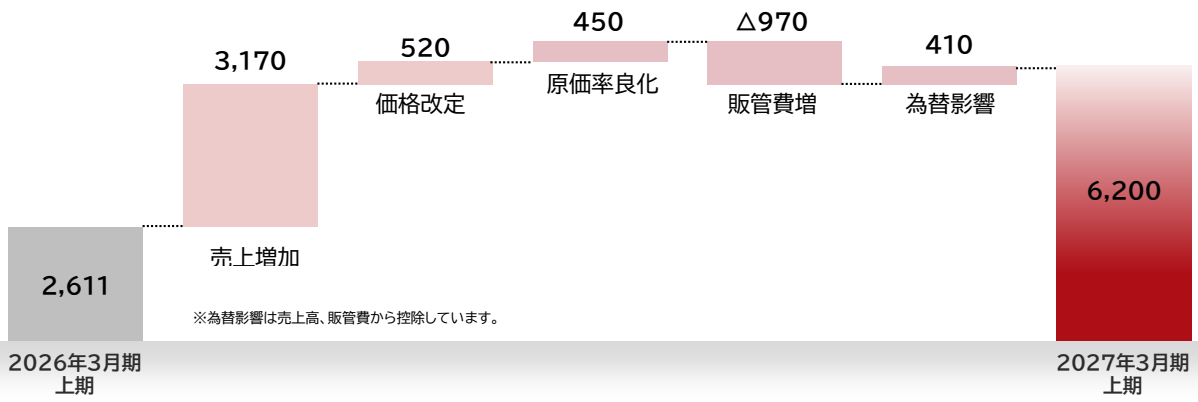
連結業績の全体像はご覧の通りです。

原材料価格高騰の影響を受けたものの、売上高の拡大に伴い、粗利率は47.5%に改善し、販管費率は33.2%となりました。

営業利益、経常利益ともに前年同期比で大幅な回復となり、米国旧本社の土地・建物の譲渡に伴う特別利益の計上もあったことから、1株当たり中間純利益は244.84円となりました。

営業損益変動要因

- 各地域、主要な製品群で売上高が伸長し、価格改定効果が貢献
  また、利益率の高い安全関連機器の構成比が向上したことなどにより原価率が良化
- 売上増加に伴う費用増や、インフレを背景とした労務費増により販売管理費は増加
- これらの結果、営業利益は前年同期比で約35.8億円増加



Copyright IDEC Corporation. All rights reserved.

営業利益の増減要因については、各地域、主要な製品群において売上高が大きく伸長したことに加え、価格改定効果も貢献しました。
また、利益率の高い安全関連機器の構成比が向上したことなどから、原価率が良化しました。

一方で、販管費については、売上増加に伴う費用増や、インフレを背景とした労務費増により増加しました。

これらの結果、営業利益は前年同期比で約35.8億円の増加となりました。

連結業績(四半期)

- 主に日本、中国を中心に、利益率の高いHMIや安全関連機器の売上が伸長したことなどから、営業利益率は2Q 17.1%

単位:百万円 ※百万円未満切り捨て	2026年3月期						2027年3月期				
	2Q (7-9月)		3Q (10-12月)		4Q (1-3月)		1Q (4-6月)		2Q (7-9月)		
	実績	売上比	実績	売上比	実績	売上比	実績	売上比	実績	売上比	前年同期比
売上高	18,374	100.0%	18,906	100.0%	19,950	100.0%	21,405	100.0%	21,863	100.0%	+19.0%
売上総利益	8,584	46.7%	8,377	44.3%	8,743	43.8%	9,735	45.5%	10,816	49.5%	+26.0%
販売費及び 一般管理費	6,298	34.3%	6,608	35.0%	7,005	35.1%	7,277	34.0%	7,073	32.4%	+12.3%
営業利益	2,286	12.4%	1,769	9.4%	1,738	8.7%	2,458	11.5%	3,742	17.1%	+63.7%
経常利益	2,282	12.4%	2,003	10.6%	1,656	8.3%	2,530	11.8%	3,647	16.7%	+59.8%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,290	7.0%	1,130	6.0%	987	4.9%	4,754	22.2%	2,497	11.4%	+93.6%
1株当たり四半期純利益 (潜在株式調整前)	43.71円	–	38.30円	–	33.44円	–	160.69円	–	84.15円	–	+40.44円

Copyright IDEC Corporation. All rights reserved.

こちらは四半期別推移ですが、好調な受注状況を受けて、継続して売上高、利益ともに好調に推移し、前年同期比、第1四半期比ともに増収増益となりました。

また、日本や中国を中心に、受注が好調な半導体装置や工作機械などに搭載される、利益率の高いHMIや安全関連機器の売上が伸長したことなどから、粗利率が49.5%、営業利益率が17.1%と大きく向上しました。

仕向地別の売上状況

単位：百万円 ※百万円未満切り捨て （構成比）	2026年3月期 上期	2027年3月期 上期	前年同期比
日本	11,471 (33.6%)	**14,211** **(32.8%)**	+23.9%
海外	22,639 (66.4%)	**29,057** **(67.2%)**	+28.4%
米州	7,311 (21.4%)	**8,586** **(19.9%)**	+17.4%
EMEA （欧州、中東、アフリカ）	7,127 (20.9%)	**8,709** **(20.1%)**	+22.2%
アジア・パシフィック	8,200 (24.1%)	**11,761** **(27.2%)**	+43.4%
合計	34,111 (100.0%)	**43,269** **(100.0%)**	+26.8%

日本	• 前期末以来、半導体やロボット業界の需要伸長により受注が好調に推移し、売上は伸長
米州	• 引き続きデータセンター、半導体装置向け需要が伸長し、売上は好調に推移
EMEA	• 欧州では、主要産業の需要落ち込みから徐々に回復基調に転じたことで、売上も増加傾向
アジア・パシフィック	• 中国における自動車や半導体業界などのスマートファクトリー化によるFA需要が堅調に拡大し、売上は大きく伸長

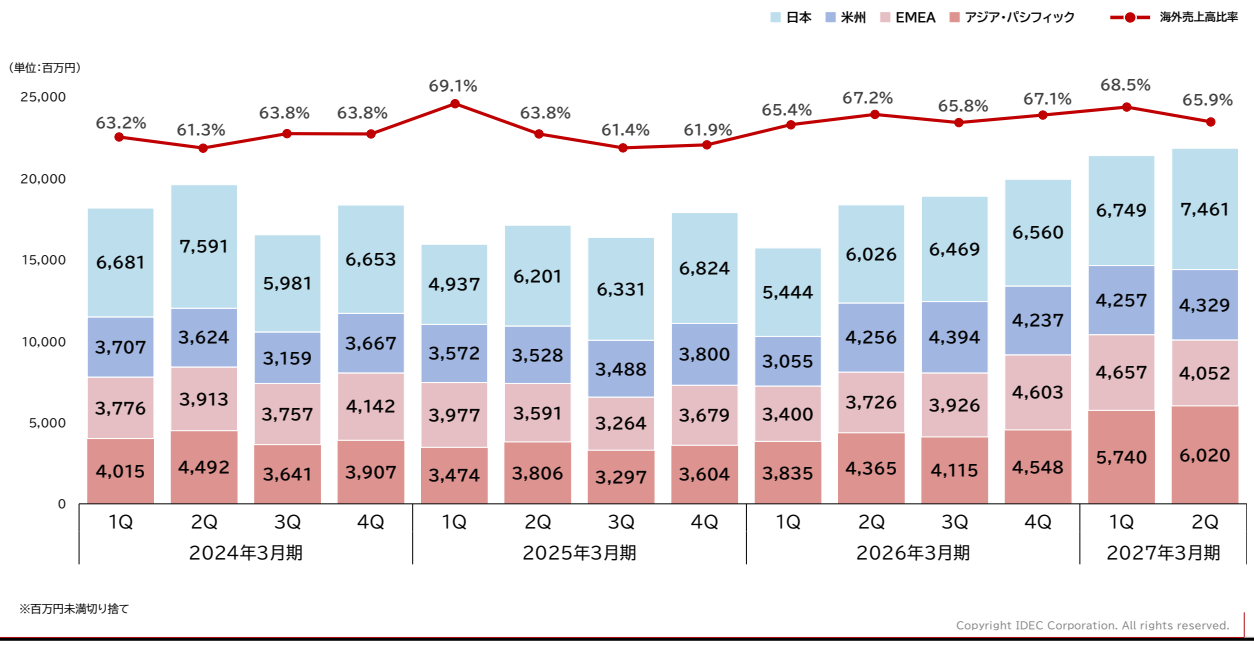
Copyright IDEC Corporation. All rights reserved.

仕向地別の売上については、前年同期比で国内外ともに大きく増加しました。

特に好調なのが日本と中国ですが、日本は、半導体装置やロボット業界の需要の伸長などの影響により売上が伸長し、中国では自動車や半導体業界などのスマートファクトリー化によるファクトリーオートメーション需要の拡大により、売上が大きく伸長しました。

米州では、引き続きデータセンターや半導体装置向けの需要が伸長しており、欧州では、主要産業の需要落ち込みから徐々に回復基調に転じたことで、売上も増加傾向となっています。

仕向地別の売上状況(四半期)



※百万円未満切り捨て

Copyright IDEC Corporation. All rights reserved.

四半期別推移についても、各地域において売上は好調に推移しておりますが、特に日本、アジアパ・シフィックでの伸び率が高い状況が続いています。

製品別の売上状況

単位：百万円 ※百万円未満切り捨て （構成比）	2026年3月期 上期	2027年3月期 上期	前年同期比
HMI事業	16,077 （47.2%）	**20,262** **（46.8%）**	+26.0%
インダストリアル コンポーネンツ事業	6,281 （18.4%）	**8,095** **（18.7%）**	+28.9%
オートメーション＆ センシング事業	3,442 （10.1%）	**4,217** **（9.8%）**	+22.5%
安全・防爆事業	6,047 （17.7%）	**8,609** **（19.9%）**	+42.3%
システム	2,261 （6.6%）	**2,084** **（4.8%）**	△7.8%
合計	34,111 （100.0%）	**43,269** **（100.0%）**	+26.8%

HMI	• FA向け、特に半導体製造装置向けの需要が牽引した結果、産業用スイッチの売上が堅調に推移
ｲﾝﾀﾞｽﾄﾘｱﾙ ｺﾝﾎﾟｰﾈﾝﾂ	• 主力市場であるアジア・パシフィック、北米市場において、制御用リレーの売上が伸長
ｵｰﾄﾒｰｼｮﾝ＆ ｾﾝｼﾝｸﾞ	• 主力製品であるプログラマブルコントローラにおいて、主要市場である北米が堅調に推移し、OEM先への出荷も伸長
安全・防爆	• 主力市場である日本、アジア・パシフィックにおいて、特に中国における安全関連機器の売上が堅調に推移
システム	• 日本、アジア・パシフィックにおいて、半導体製造設備・物流関連設備等の制御盤の売上が減少

Copyright IDEC Corporation. All rights reserved.

製品別の売上高については、HMI事業ではファクトリーオートメーション向け、特に半導体装置向けの需要が牽引した結果、主力製品である産業用スイッチの売上が堅調に推移しました。

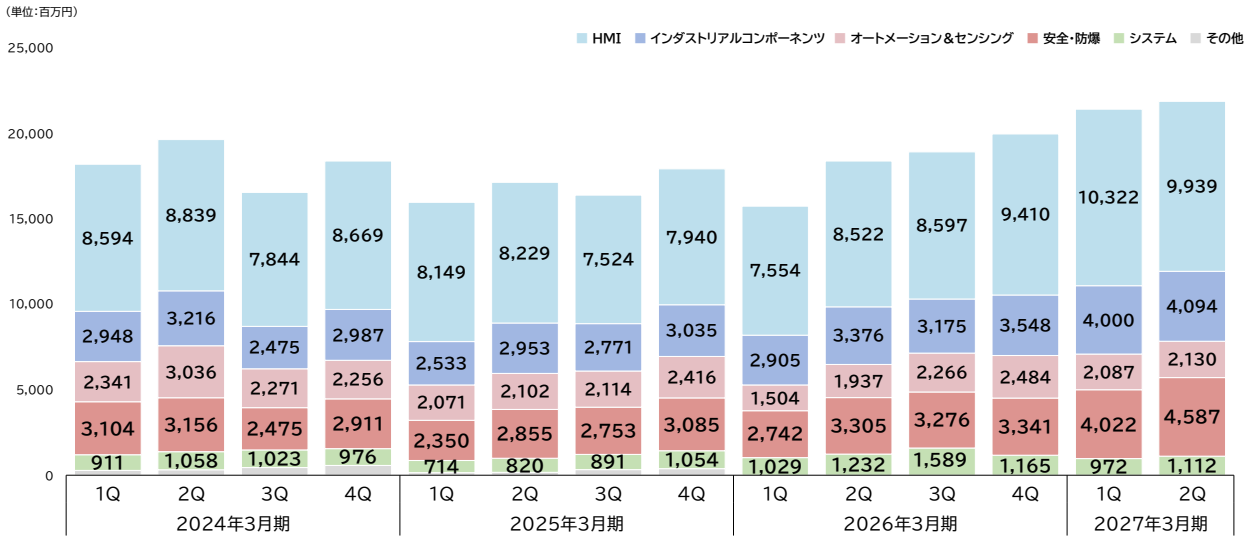
インダストリアルコンポーネンツ事業は、主力市場である中国を中心としたアジア・パシフィック、北米市場において制御用リレーの売上が伸長しました。

オートメーション＆センシング事業は、主力製品であるプログラマブルコントローラにおいて、主力市場である北米の売上が堅調に推移し、OEM先への出荷も伸長したことから、全体としても増収となりました。

安全・防爆事業は、主力市場である日本とアジア・パシフィック、特に中国における安全関連機器の売上が堅調に推移しました。

システムは、日本、アジア・パシフィックで、半導体製造設備、物流関連設備等の制御盤の売上が減少しました。

製品別の売上状況(四半期)



※百万円未満切り捨て
※ IDECシステムズ&コントロールズ株式会社(太陽光発電事業)の売却等により、2026年3月期から「その他」は廃止

Copyright IDEC Corporation. All rights reserved.

四半期別推移についてはも安全関連機器を中心に、各製品群で好調に売上が伸びている状況ですが、HMI事業については、APEMブランド製品の売上が伸び悩んだことで第1四半期比では若干の減少となりました。

注力業界と傾向

- AI投資に関連して、半導体装置向けの投資が拡大しており、工作機械やロボットについても、引き続き堅調

ー：横ばい　○：拡大　◎：大きく伸長

	2027年3月期の見通し	日本	米国	欧州	中国	APAC
工作機械 	・引き続き、グローバルで一定程度の成長が見込まれる。	○	○	○	○	○
半導体 	・AI投資に関連して半導体製造装置向けの投資が続いており、各地域で高い成長を見込む。	◎	◎	○	◎	○
ロボット 	・日本や中国を中心に、グローバルで成長が見込まれる。	○	○	ー	○	○
自動車 	・中国やアジアでは自動車関連投資が堅調に推移。	ー	ー	ー	○	○
特殊車両 	・建設機械、マテハン向け装置、防衛関連の各業界とも回復傾向。	ー	ー	○	○	
AGV・AMR 	・人手不足や自動化需要を背景として、グローバルで力強い成長が続く見込み。	○	○	○	◎	

Copyright IDEC Corporation. All rights reserved.

我々が製品やソリューションを展開する注力業界はご覧の通りですが、AI投資に関連して、引き続き半導体装置向けの投資が各地域で拡大しており、日本、米国、中国などで高い成長を見込んでいます。

また、工作機械やロボット、AGV・AMRなどの業界も需要は好調で、グローバルで成長すると見込んでいます。

受注状況

- 各地域で力強い受注が継続しており、受注高、受注残高ともに前年同期比で大幅に増加
- 上期の受注高として過去最高額を更新

単位：百万円 ※百万円未満切り捨て	2026年3月期 上期		2027年3月期 上期			
	受注高	受注残高	受注高	前年同期比	受注残高	前年同期比
日本	13,417	6,168	**20,437**	+52.3%	**11,756**	+90.6%
米州	7,510	2,929	**9,646**	+28.4%	**4,581**	+56.4%
EMEA （欧州、中東、アフリカ）	6,756	7,072	**10,483**	+55.2%	**9,337**	+32.0%
アジア・パシフィック	5,429	2,591	**11,968**	+120.4%	**6,967**	+168.8%
合計	33,114	18,762	**52,536**	+58.6%	**32,642**	+74.0%

Copyright IDEC Corporation. All rights reserved.

受注については、各地域で受注高、受注残高共に大幅に増加しており、特に中国での受注が強い状況が続いているため、アジア・パシフィックの受注高の伸び率は、前年同期比で120%増となっています。

上期の受注高としては過去最高額を更新し、前年同期比58.6%増の525億円となりました。

受注状況(四半期)

- 日本は、半導体装置やロボット業界などの需要が受注を牽引していることに加え、基幹システム見直しによる前倒し需要増加の影響から、引き続き受注が拡大
- 中国では、半導体装置、工作機械業界の強い需要が継続しており、アジア・パシフィックの受注を牽引
- 四半期ベースの受注高は、1Qに続き2Qも過去最高額を更新

単位:百万円 ※百万円未満切り捨て	2026年3月期								2027年3月期	
	2Q (7-9月)		3Q (10-12月)		4Q (1-3月)		1Q (4-6月)		2Q (7-9月)	
	受注高	受注残高	受注高	受注残高	受注高	受注残高	受注高	受注残高	受注高	受注残高
日本	6,875	6,168	6,621	5,627	8,282	6,605	9,782	9,049	**10,655**	**11,756**
米州	3,953	2,929	4,302	2,873	4,706	3,392	4,997	4,146	**4,648**	**4,581**
EMEA (欧州、中東、アフリカ)	3,767	7,072	4,675	7,738	4,812	7,813	5,450	8,524	**5,033**	**9,337**
アジア・パシフィック	3,007	2,591	3,451	2,665	6,620	5,564	5,390	5,870	**6,577**	**6,967**
合計	17,604	18,762	19,050	18,906	24,420	23,376	25,620	27,591	**26,915**	**32,642**

Copyright IDEC Corporation. All rights reserved.

四半期別の推移については、日本は、半導体装置向けの需要が受注を牽引していることに加え、基幹システム見直しによる前倒し需要の増加の影響から、106億円の受注高となりました。
半導体装置や工作機械業界で好調な受注が続く中国が牽引するアジア・パシフィックについても、65億円と高水準の受注が続いている状況です。

これらの結果、第2四半期の受注高は、第1四半期に続き過去最高額を更新し、269億円となりました。

連結貸借対照表

単位：百万円 ※百万円未満切り捨て	2026年3月期 （前会計年度）	2027年3月期 （9月末）	前会計年度比 増減
流動資産	53,312	**56,065**	+2,752
固定資産	60,259	**58,207**	△2,051
流動負債	27,065	**29,083**	+2,017
固定負債	16,586	**10,614**	△5,972
純資産	69,920	**74,575**	+4,655
総資産	113,572	**114,273**	+700
自己資本比率	61.0%	**64.9%**	+3.9%

資産
- 有形固定資産、無形固定資産が減少した一方、現金及び預金、棚卸資産、売上債権が増加したことなどから、総資産は前期末比で7億円増加

負債
- 仕入債務、未払法人税等、未払費用などが増加した一方、借入金が減少したことなどから、負債は前期末比で約39.5億円減少

純資産
- 利益剰余金が増加したことなどから、純資産は前期末比で約46.5億円増加

Copyright IDEC Corporation. All rights reserved.

貸借対照表については、固定資産が減少した一方、現預金や棚卸資産、売上債権が増加したことなどから、総資産は前期末比で7億円増加しました。

負債については、仕入債務や未払法人税等、未払費用などが増加した一方、借入金が減少したことなどから、前期末比で約39.5億円減少しました。

自己資本比率は前期より3.9%増加し、64.9%となりました。

連結キャッシュ・フロー

単位：百万円 ※百万円未満切り捨て	2026年3月期 上期	2027年3月期 上期	前年同期比 増減
営業CF	2,288	**7,282**	+4,993
投資CF	△1,959	**2,628**	+4,587
FCF ※フリーキャッシュ・フロー	329	**9,910**	+9,581
財務CF	△4,802	**△8,501**	△3,699
現金及び現金同等物の 期末残高	14,274	**19,494**	+5,220

営業CF
- 固定資産売却益を調整した一方、売上拡大による利益増加等により、約72.8億円

投資CF
- 米国旧本社の土地・建物の譲渡、新本社への投資等により、約26.2億円

財務CF
- 配当金の支払い及び有利子負債の返済により、約△85億円

Copyright IDEC Corporation. All rights reserved.

営業キャッシュ・フローについては、固定資産売却益を調整した一方、売上拡大による利益増加などにより、約72.8億円の収入となりました。

投資キャッシュ・フローは、米国旧本社の土地・建物の譲渡や新本社への投資などにより約26.2億円の収入となり、フリーキャッシュ・フローは99億円となりました。

財務キャッシュ・フローは、配当金の支払い及び有利子負債の返済により、約85億円の支出となりました。

02 — 2027年3月　通期業績予想

なお、通期の業績予想につきましては、

2027年3月期　通期業績予想（10月2日公表）

- AIやデジタル関連分野を中心とした設備投資需要が拡大しており、期初計画を上方修正
- 好調な受注環境を踏まえ、生産キャパシティの拡大や必要な部材調達の手配に加え、原材料価格の高騰やリソース強化により売上原価は増加傾向
- 開発投資、将来に向けた成長投資を下期に想定していることに加え、グローバルマネジメント強化、米国本社の償却などにより販管費も増加見込み

単位：百万円 ※百万円未満切り捨て	2026年3月期		2027年3月期(期初計画)		2027年3月期（10月2日公表）		
	実績	売上比	予想	売上比	予想	売上比	前期比
売上高	72,967	100.0%	75,500	100.0%	**85,000**	100.0%	+16.5%
売上総利益	32,349	44.3%	35,200	46.6%	**38,800**	45.6%	+19.9%
販売費及び一般管理費	26,230	35.9%	28,000	37.1%	**29,400**	34.6%	+12.1%
営業利益	6,118	8.4%	7,200	9.5%	**9,400**	11.1%	+53.6%
経常利益	6,569	9.0%	6,750	8.9%	**8,950**	10.5%	+36.2%
親会社株主に帰属する当期純利益	3,873	5.3%	6,000	7.9%	**8,600**	10.1%	+122.0%
1株当たり当期純利益（潜在株式調整前）	131.22円	–	203.25円	–	**290.46円**	–	+159.24円
米ドル平均レート(円)	150.67円		150.00円		**154.01円**		+3.34円
ユーロ平均レート(円)	174.64円		180.00円		**182.12円**		+7.48円
人民元平均レート(円)	21.22円		21.00円		**22.28円**		+1.06円

Copyright IDEC Corporation. All rights reserved.

AIやデジタル関連分野を中心とした設備投資需要が拡大していることを踏まえて、10月2日に期初計画を上方修正しました。
売上高は、期初計画の755億円から850億円としております。

好調な受注環境を踏まえて、生産キャパシティの拡大や、必要な部材調達の手配を行っていることに加え、原材料価格の高騰やリソース強化などの影響から、売上原価は期初計画より増加傾向となっており、粗利率は45.6%としております。
また、開発投資、将来に向けた成長投資を下期に想定していることに加え、グローバルマネジメントの強化や、米国本社の償却などにより、販管費も増加を見込んでいます。

これらの要因も踏まえたうえで、通期の営業利益は94億円、利益率11.1%の計画としております。

2027年3月期　通期業績予想

- 日本、中国を中心に各地域で半導体装置、ロボット、工作機械等の需要が堅調に推移

単位:百万円 ※百万円未満切り捨て (構成比)	2026年3月期 実績	2027年3月期 (期初計画) 予想	2027年3月期 (10月2日公表) 予想	前期比
HMI事業	34,085 (46.7%)	35,200 (46.6%)	**41,000** **(48.2%)**	+20.3%
インダストリアルコンポーネンツ事業	13,005 (17.8%)	13,000 (17.2%)	**14,700** **(17.3%)**	+13.0%
オートメーション＆センシング事業	8,193 (11.2%)	8,800 (11.7%)	**9,000** **(10.6%)**	+9.8%
安全･防爆事業	12,665 (17.4%)	13,400 (17.7%)	**15,200** **(17.9%)**	+20.0%
システム	5,016 (6.9%)	5,100 (6.8%)	**5,100** **(6.0%)**	+1.7%
合計	72,967	75,500	**85,000**	+16.5%
国内売上高	24,500	25,400	**30,100**	+22.9%
海外売上高 (海外売上高比率)	48,466 (66.4%)	50,100 (66.4%)	**54,900** **(64.6%)**	+13.3%

Copyright IDEC Corporation. All rights reserved.

製品別、地域別売上高も修正しており、日本や中国を中心に各地域で半導体装置やロボット、工作機械などの需要が堅調に推移していることから、HMIや安全関連機器を中心に伸長する見込みです。

為替レートと為替感応度

通貨	為替前提	1円変動による影響額 ※人民元は0.1円変動の影響額	
		売上高	営業利益
米ドル	154.01円	117万円	13百万円
ユーロ	182.12円	98百万円	8百万円
人民元	22.28円	50百万円	5百万円

Copyright IDEC Corporation. All rights reserved.

修正計画の為替レートと、為替感応度はご覧の通りです。

03 中期経営計画の進捗

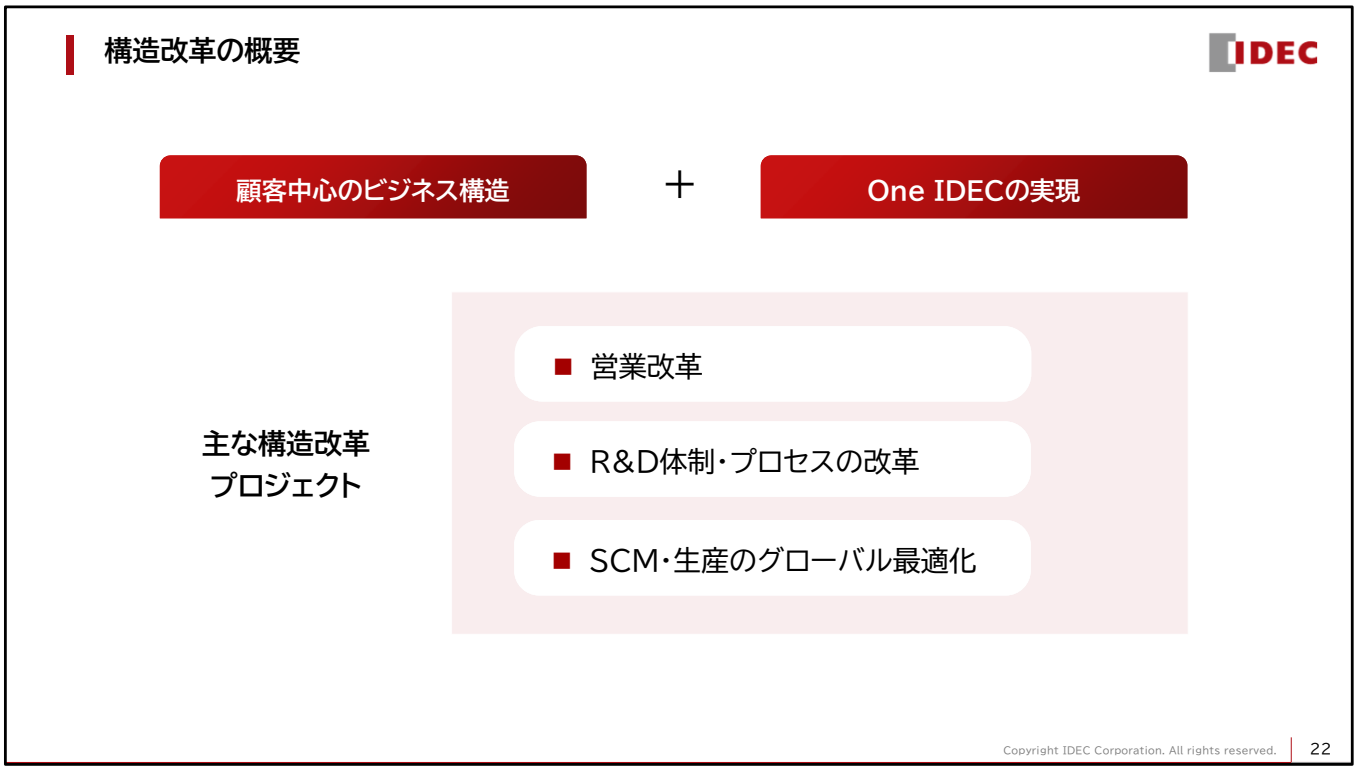
続きまして、専務の舩木より中期経営計画の進捗についてご説明させていただきます。



専務の舩木です。
私から中期経営計画についてご説明させていただきます。

現在、中計の2年目となりますが、当初想定していた3年目の売上高770億円以上は今期に1年前倒しで達成できる見込みで、営業利益についても当初想定より高い水準で推移しています。

こういった背景を踏まえ、中計最終年度となる来期の目標は見直す予定ですので、今後改めて開示させていただきます。



中計の中で、さまざまな構造改革プロジェクトを推進していますが、今回は営業改革と、R&D体制・プロセス改革、SCM・生産のグローバル最適化についてご紹介します。

顧客ニーズを製品開発につなぐ営業・R&D改革

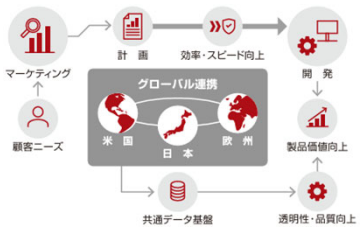
IDEC

- 顧客起点の営業力の強化

✓ **グローバルでの高位平準化：** 営業プロセス・KPIの統一による、営業の質向上

✓ **情報共有：** 顧客管理基盤での地域横断の営業活動の可視化による業務効率化

✓ **顧客起点の活動：**
グローバルデータの分析による、顧客ニーズに基づく製品開発への連携強化



営業で把握した顧客ニーズを、開発ロードマップに反映

- One IDECでの開発体制と中長期的な開発テーマの選定

✓ **開発力の強化：**
グローバルでのプロセス統一と日米欧の連携強化により、開発期間の短縮、品質向上を推進
新体制の下、グローバルでの並行開発を段階的に強化

✓ **成長領域の選定：**
Innovation Committeeで、メガトレンドを起点に中長期の成長機会となる重点領域を選定し、有望テーマの具体化とロードマップの策定を推進中



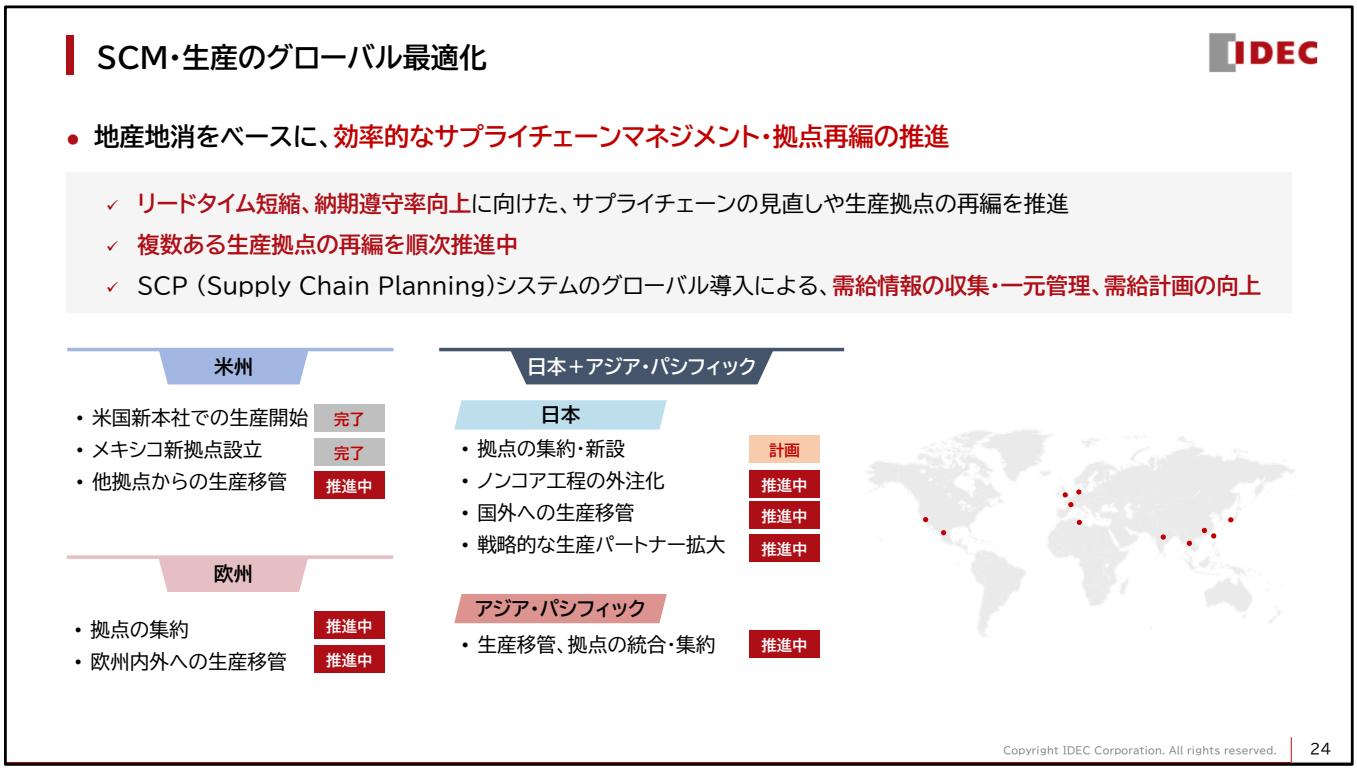
R&D・企画・マーケティングメンバーが多様な視点で協議

Copyright IDEC Corporation. All rights reserved.

顧客中心のビジネス構造へ転換し、市場変化への対応力を向上することを、中計の目標として掲げていますが、そのために営業プロセスやKPIをグローバルで統一することで、営業の質を向上する取り組みを行っています。
全社共通の顧客管理基盤により、地域横断の営業活動を可視化し、共有することで業務効率をさらに向上していきます。
また、グローバルで収集したデータを分析することで、顧客ニーズに基づく製品開発への連携も強化しています。

営業改革と並行して、One IDECでの体制構築のため、グローバルR&D体制とプロセスを刷新しました。
グローバルでのプロセス統一と、日本、米国、欧州の連携をさらに強化することで、開発期間の短縮と品質向上を推進しており、新しい開発体制のもとで、グローバルでの並行開発を段階的に強化しているところです。

Innovation Committeeでは、メガトレンドを起点に、中長期の成長機会となる重点領域を選定し、有望テーマの具体化とロードマップの策定を行っています。



SCM・生産のグローバル最適化に向けては、地産地消をベースに、効率的なサプライチェーンマネジメント、拠点の再編を推進しています。

生産拠点の再編を現在行っており、米国新本社での生産、メキシコ新拠点の稼働を開始しています。
欧州やアジア・パシフィックにおける拠点の集約などは現在推進中で、日本においても今後計画を進めていく予定です。

現在、各地域で多くの受注をいただている状況ですので、中長期的な生産拠点の再編とともに、足元での増産体制の構築に向けた取り組みも並行して行うことで、今期、来期と継続的な成長を目指しております。

以上で、私からの説明は終わらせていただきます。

参考資料

製品別売上区分

HMI

- 制御用操作スイッチ
- ジョイスティック
- 表示灯
- プログラマブル表示器
- セーフティコマンダ

IDEC



APEM



インダストリアル コンポーネンツ

- 端子台
- 制御用リレー/ソケット
- スイッチング電源
- サーキットプロテクタ
- 産業用LED照明



オートメーション& センシング

- プログラマブルコントローラ
- センサ
- アシストホイールドライブ（AWD）
- セーフティホイールドライブ（SWD）
- 自動認識機器



安全・防爆

- 安全関連機器
  - ・非常停止用押ボタンスイッチ
  - ・イネーブルスイッチ
  - ・安全スイッチ
  - ・セーフティレーザスキャナ　など



- 防爆関連機器



システム

- 制御盤
- 協働ロボットシステム
- セキュリティシステム
- その他各種システム



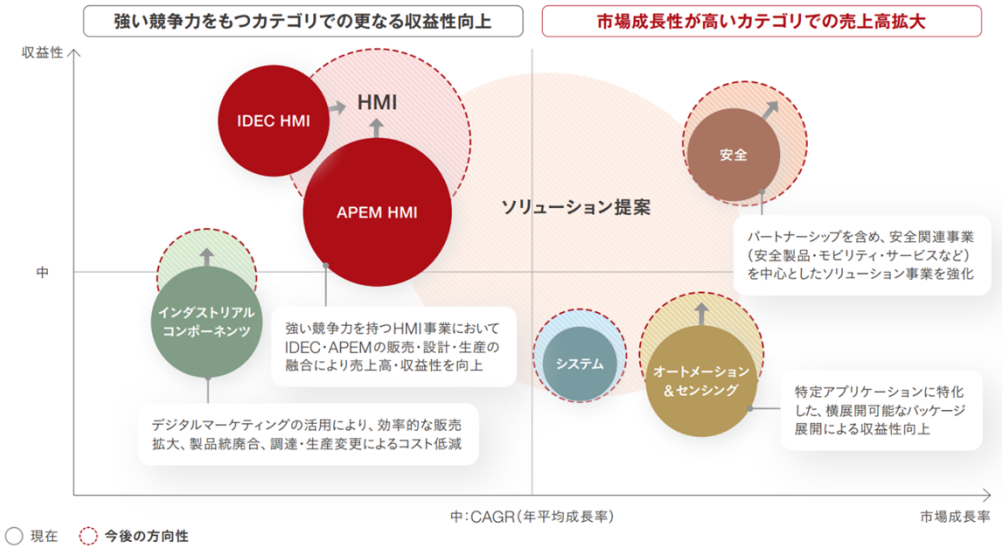




Copyright IDEC Corporation. All rights reserved.

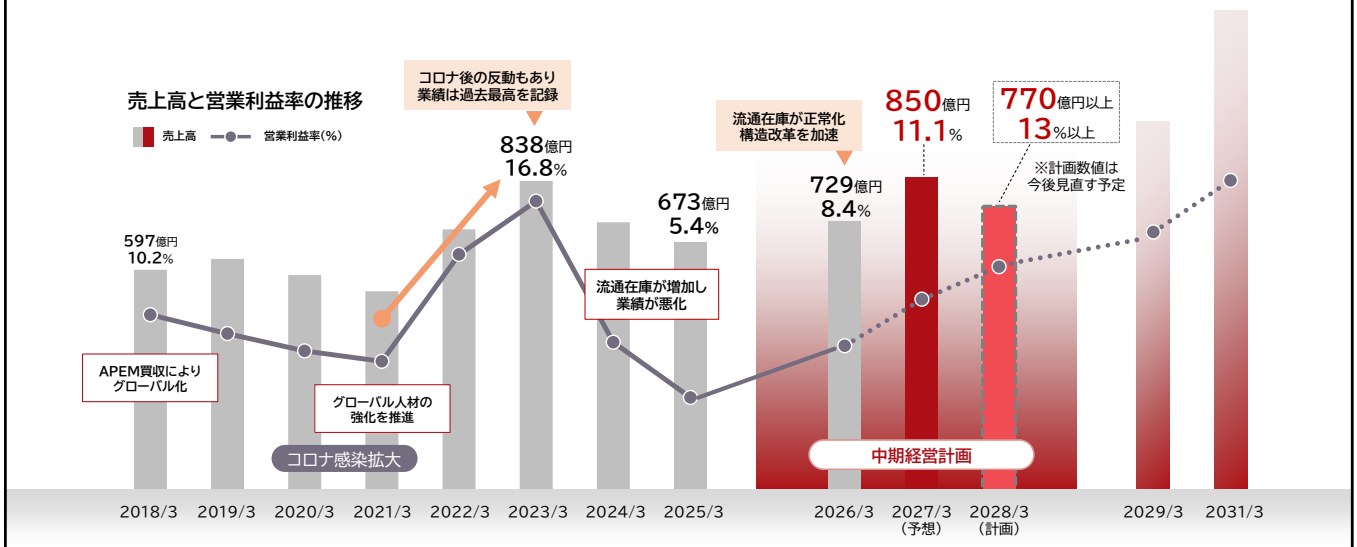
事業のポートフォリオ

- 強い事業の収益性拡大と、市場成長の高いカテゴリでのソリューションを強化



Copyright IDEC Corporation. All rights reserved.

中期経営計画



Copyright IDEC Corporation. All rights reserved.

この資料には一部当社の計画や業績予想が含まれていますが、それらの計画や予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が計画、予想したものです。
従って、実際の業績などは、今後さまざまな要因によって計画、予想数値と異なる結果となる可能性があります。

IDEC株式会社
経営戦略企画本部
TEL :06-6398-2505
FAX :06-6398-2587